

第26号
(6月号)
2015年
6月1日

七里ヶ丘子ども若者支援研究所
それが社会参加だ!

住所: 鎌倉市七里ヶ浜 2-31-12
携帯: 090-7212-4055
Email: qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp
編集長: 新舛秀浩
発行責任者: 滝田衛

「随意」

伊藤正夫さん(会員)

「乾杯〜」と言う声と共に、グッと飲み干す。英語では、色々言い方は有るが、取り敢えず「bottoms up!」。中国語だと、「干杯(ganbei)!」。いずれにしても、グラスを飲み干すわけだ。

ひと昔前は、仕事上や会社の付き合いで、下戸はちょっと困ってしまっただ。「酒は付き合い程度」とか「嗜む程度」などと言いながら、うわばみの多い事。だから、いくら「飲めない」と言っても、なかなか許してもらえない。「まあまあ、一杯位は付き合いだから……」と無理強いが始まる。挙句、付き合いの悪い奴と言う事になってしまう。

では、外国ではどうか? 「アルコールに弱いから飲めなくて……」と言えば、先ずそれ以上は勧めない。でも、やっぱり、ちょっと付き合いが悪いかな? だから、中国人には、「私はアルコールに強くないから……随意(suiyi)」と言えば、いっき飲みはしなくても、まあ、許してもらえる。

やっぱり、日本人は、みんな同じでないと嫌なのかな!? 外国人は他人にあまり干渉しないでくれるから居心地が良く感じるのかな?

私はこの「随意」の音の響きが好きである。「思いのままにさせてください!」と言えばその個人を尊重して「どうぞ、どうぞ、あなたが飲まなくても私は飲みます。あなたは好きに飲んでください。」と言ってもらえる寛容さとすごくゆったりとした余裕を感じる。 たかが酒の席での話だが、一人一人が寛容な社会を目指して行くことができればと思う。 随意! 随意!!

ご報告 研究所寄付事業の たすき塾、あっぷっぷ さんよりお礼状いただきました。



コラム風



藤沢のライブハウスでジャズピアノを聞いた。秀一カルテット! 秀くんのピアノをメインに、トランペット・ベース・ドラムが重なり、秀一ワールドを堪能。ちょうちょをアレンジした“ブルージーなちょうちょ”と作詞作曲の“よっちゃんとか”の2曲。“ブル”はスローに始まり後半はノリノリ、ジャズの凄さを体で感じた。一方“よっちゃん”は秀くん成長ヒストリーを彩った詩の魅力とリズム、曲はシンプル

で体がふるえた。一節を紹介したい。♪ よっちゃんは 35 歳だけどいつまでも少年のよう、秀一はいつもニコニコ。…よっちゃんは大きな笑顔、無邪気な心…頼れる兄貴です。

僕の未来は音楽、楽しい歌 ♪ と、やさしい弾き語り、天才!だ。演奏後、秀くんが語ります。「早く弾かないで、ゆっくり弾きました」(爆笑)と、先生が呼びかけると「僕は秀一、クールです。ありがとうございます」とまとめた。万雷の拍手。



自閉症の秀くんは、幼少からピアノに親しみ4人の先生に師事、ジャズに開眼した。9歳から近く見てきた僕と仲間の北澤さん、28歳の秀くんと母和枝さんの歩みに感動、脱帽!(滝田)

5月19日子ども若者応援団会議「カタルカで交流、今後の応援団について議論」

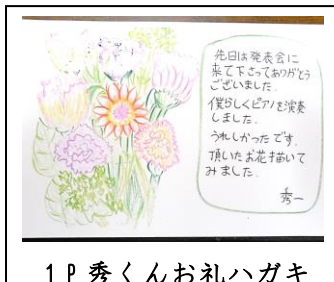


伊藤さん(1面参照)紹介の、コミュニケーションスキル向上「カタルカ」で楽しく交流。今年度の応援団会議の進め方を改めました。事務局は設けずその都度、協議します。大交流会は中止し、不登校、引きこもり等の研修会、講演会を行います。たびたびの変更申し訳ありません。議論の過程では障がいに対する多様な学習を。行政のみではなく、地域で不登校、引きこもりを支援。横須賀市の事例では年に約700人の不登校に対し適応指導教室に通えるのは約100人、多様なアプローチの必要性を。学校という枠にはまらないだけで自己肯定感が無くなる若者に危惧。やりたいことで生活を成り立たせるスローな生き方も。ある若者は、自身の不登校、精神疾患を悲観せず前向きに良い経験だと思い、また別の若者は回り道が人との出会いを生みと前向きに。引き続き今後も子ども若者支援に取り組んでまいります。宜しくお願い致します。(新舛)

それぞれの風 ※神奈川新聞教育欄「侃々諤々」6/1 フリースクール論を書きました。ご笑覧ください。(滝田)

○「適当でいいんだよ」「うーん、そういう考えもあるよね」などと、わかったような曖昧な感じで話を終えることがある。それが人との穏やかな関係づくり、人をしばらない手法として、私たちは自然と受け止めている。しかし、この曖昧さがどうにも許せない人がいる。社会の先頭を走る人を指しているわけではない。そう、15年来ひきこもり感覚にさいなまれているBさんが、改めて感じている。

○打合せに行っても集まりが悪い。打合せしてもその通りやらない。謝りもなく、感謝もない。ノラリクラリの居場所は、Bさんにはつらい場所だった。それがBさんのひきこもる理由でもある。「ひきこもる人はきっちり嫌いでしょう」は偏見でもある。10人十色である。



○最近はおきらめました。少し距離を置くようにしています。むしろ、人を手がかりにしてきつい状態を和らげてもらう、そんなことができるようになりました。とFさん。

○「人と会って話してみたら?」「そんなことするぐらいなら働くよ」と、母の問いにSさんは言った。親子の会話は凄惨。「普段は思い切って言えないんです」と母。思い切った母に、息子も思い切った言い方で返した?

編集後記・本研究所の会員が100人を超えました、この場を借りて御礼申し上げます・新舛秀浩

【ご参加下さい】

応援団会議は横須賀市市民サポートセンター午後2時～4時会員の自由な集まりです。

6月研究所開設日程(駐車場有)相談時間10時～16時土日訪問はご相談

1日(月)	事業あり	18日(木)	相談
4日(木)	予約あり	21日(日)	応援団会議
8日(月)	事業あり	22日(月)	相談
11日(木)	相談	25日(木)	予約あり
15日(月)	事業あり	29日(月)	相談